第１回四万十町総合振興計画審議会　会議録

開催日時：令和３年７月６日（火）１３：３０～１５：３０
場　　所：四万十町役場東庁舎１階大ホール

出席者（１７名）：横山　順一、太田　祥一、泉　　茂、尾﨑　弘明、神田　修、
横山　泰久、中島　克明、船村　覺、三浦　ひろみ、岡村　健志、
酒井　紀子、鈴木　幸代、野村　宏、藤澤　久美子、八木　雅昭、
山本　由美、田村　敬子
（敬称略）

欠席者（３名）：佐々木　将司、田邊　誠進、森　雅順
（敬称略）

事　　務　　局：四万十町役場企画課（６名）
にぎわい創出課（３名）
人材育成推進センター（２名）

■　会議次第
1　開会
2　令和２年度地方創生推進交付金事業に係る効果の検証及び認定地域再生計画の最終年評価について
①　事業実績について担当課より説明
（ア）　四万十町を知る取り組み
（イ）　四万十町を体感する取り組み
（ウ）　四万十町に住む取り組み
（エ）　四万十町で育てる取り組み
②　質疑応答
3　意見交換
4　その他
5　閉会

■　会議資料
1　会議次第
2　委員名簿
3　令和２年度地方創生推進交付金_評価資料
4　人材育成推進センター（別冊資料）
5　企画課広報情報係（別冊資料）
6　地域再生計画評価調書
7　令和２年度審議会でいただいたご意見への対応状況
8　委員評価用紙

■　会議録

（事務局）
　定刻になりましたので、令和３年度第１回四万十町総合振興計画審議会を始めさせていただきます。年度が変わって初めての会ということで、事務局の自己紹介をさせていただきます。
＜自己紹介：省略＞
　それと、委員さんの交代についてご紹介させていただきます。昨年、商工会から参加いただいておりました佐竹委員さんが交代されまして、本日は欠席されておりますが佐々木委員さんに変更となりましたのでよろしくお願いします。また、高知県の地域産業振興監の森田委員さんから、田村委員さんに交代されましたのでご紹介させていただきます。

（田村委員）
　田村です。よろしくお願いします。

（事務局）
　それでは、資料のご確認の方をお願いしたいと思います。事前にお配りさせていただいた資料が２種類ありますが、令和２年度地方創生推進交付金事業評価資料の数字に一部訂正箇所がありましたので、差し替えをお願いいたします。
　また、お配りさせていただいている資料の中に、委員評価欄という用紙を構えておりますので、今回の事業の説明を受けて、どういった形で効果があったのかどうなのかということやその他のご意見等について後ほど記載をお願いしたいと思いますので、よろしくお願いします。いただきました評価につきましては、とりまとめさせていただき次回以降の会で報告させていただきたいと考えておりますのでよろしくお願いします。
　それでは、開会にあたりまして、会長よりご挨拶いただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

（八木会長）
　皆さんこんにちは。会長の八木でございます。今年も半分が終わりましたが、第１回の四万十町総合振興計画審議会にご出席いただきましてありがとうございます。
　この審議会も、年度が変わってメンバーも新しくなっておりますけれど、今回提案されております事業の評価については、また後程十分な議論をお願いしたいと思います。
　さて、新型コロナウイルスの方も、約１年半が経過しまして、依然としてマスクをしながらの生活が続いておりますが、新型コロナワクチンの接種が始まりまして、高齢者を中心に接種の方も進んでおりまして、少しずつ安堵もしていくかなという気もしますけれど、なお健康状態には気をつけていきたいと思っているところです。
　四万十町は町村合併から 15 年経過をいたしました。今、人口が 1 万 6200 人ぐらいだと思いますけども、合併前からいいますと約 6000 人の減少ということで、かなりの人口が減ってきております。そういう意味では、少子高齢・過疎が顕著に進んでいる中山間地域じゃないかなと思いますけが、そのような中でこの総合振興計画の評価でございますけれども、計画が 10 年間ということで、現在前期の計画を進んでおりますけれど、事業評価をしながら、よりよいまちづくりに努めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。
　今回の評価でございますが、どちらかというと行政のスタッフの評価が中心となっておりますけれども、本来総合振興計画の基本になるものは、住民と議会と行政の協働でまちを作り上げてくという理念がありますので、この評価の中では住民の参画度とか、議会の理解度とか、そういうものを加味しながら、全体的に評価をしていくということが大事じゃないかなと思い

ます。今日は事務局が資料の作成もしておりますので、ご説明もしていただきまして、議論を進めて参りたいと思いますので、ご協力をよろしくお願い申し上げたいと思います。

（事務局）
　それではお手元にお配りさせていただいております、令和２年度の地方創生推進交付金事業の評価資料につきまして、担当課の方からご説明をさせていただきます。後ほどご質問やご意見等をいただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

（八木会長）
　それでは２ページ目をめくっていただいたところですね、①の「四万十町を知る取り組み（情報発信体制の整備）」というところがありますけれども、そちらの（１）情報発信事業と（２）広報戦略推進及び情報共有促進事業（シティプロモーション）のところについて説明していただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

（にぎわい創出課）
　（１）情報発信事業について説明　＜省略＞

（企画課）
　（２）広報戦略推進及び情報共有促進事業（シティプロモーション）について説明　＜省略＞

（八木会長）
　ありがとうございました。今日の事業実績についての説明は４点ございますので、それぞれ１点ごとに質疑をお受けしたいと思いますのでよろしくお願いします。

（山本委員）
　２ページ目の情報発信事業についてですが、四万十町情報発信基地局は四万十町東京オフィスとありますが、高知だったら、東京に行くより大阪か神戸に行く人が多いと思いますが、そちらの方にも情報発信はされていますか。

（にぎわい創出課）
　平成３０年度に情報発信基地ということで東京オフィスを立ち上げました。これは３ヵ年事業ということで、この３月末に東京オフィス自体は閉じたわけですが、関西の方にも町内出身者の方はもちろんいますし、首都圏だけでなく関西圏の方にも、引き続き情報発信を行っていくようにしております。

（八木会長）
　他にご質問はございますか。

（横山（順一）委員）
　情報発信のところの、(1)の情報発信の成果のところに、移住候補地の最後の後押しとなると書かれておりますが、これは移住相談を随時やっていって最後に後押しをするということ以外に他に何か後押しとなる具体的な支援の方法や取り組みがありますか。

（にぎわい創出課）
　移住者が移住を検討する際は、移住先のホームページを確認し、移住先にどういった支援が

あるのかと、まず情報収集から始めるのが大半です。その次に、もう一歩踏み込んだ場合には直接担当の話を聞きたいというようなことで電話がかかってきたり、今であればオンラインの移住相談を受けたりと、そういった形で進んでいきます。
　ご質問にありました最後の後押しというのは、やはり今住んでいるところから、新たに移住するという場合には、どうしても一度現地を見てみたいとか、移住先がどういった気候や風土なのかといったようなことも含めて、現地を見ておきたいということになるわけですが、なかなかこのコロナ禍において、現地に足を運ぶという事のハードルが高いということもありますので、昨年度においては、一定コロナが落ち着いていた８月に、実際に現地に足を運んでいただいて、いろいろ見ていただくといったことを行いました。そういったことで、最後の後押しにつなげていきたいという表現にさせていただいております。

（野村委員）
　先ほどのシティプロモーション、広報戦略推進及び情報共有促進事業の説明のところですが、ホームページのトップのページの写真とか、或いは広報の４月号からの内容がすごく斬新になっていて、非常に感心しているところですが、これは企画課内でプロジェクトチームを組んでやられたのでしょうか。

（企画課）
　四万十町通信の作成に関しましては、プロジェクトチームではなくて、担当が行っておりますので、企画課内で作成したものになります。ホームページのフロントページの写真については企画課の坂本がドローンで撮影した写真を使っています。

（酒井委員）
　質問とお願いになりますが、今日のこの資料が、事前に配られた資料より多めに配布されたもので、ここまで増えるのであればできたらプロジェクターなどをつけて、視覚化していただけるとありがたいなと思ったことと、そもそもの話を理解していないのですが、地方創生事業費を使う時には、全て行政の方だけが計画してやっていることなのか、最初から町民の方の意見が入る余地というものがあったのかどうなのかというところと、この事業の予算については何費に入るのかを教えてください。

（事務局）
　ご説明が不足しておりまして申し訳ありません。この地方創生推進交付金事業につきましては、まち・ひと・しごと創生総合戦略に位置づけられている事業が交付金の対象となります。総合戦略を策定するにあたりましては、この総合振興計画審議会の委員さんにもご意見もお伺いしているということと、広く町民の皆様には、計画策定時にパブリックコメントを実施してご意見をいただいたうえで計画を策定したということになります。また、計画策定にあたりまして、各課の職員が日々の業務を遂行するにあたりまして、町民の皆様からいただいているご意見も参考にしながら計画を策定したということになります。
　それと、予算の件ですが先ほどの広報情報関係の予算ですと、総務費の方に計上をされております。また、にぎわい創出課の方では観光費ですとか、いろいろな予算費目のところに計上をされておりまして、１つのところにまとまっているということではございません。

（尾﨑委員）
　広報戦略推進事業のことでお聞きしたいのですが、令和２年度にエコバックを使ったプロモーションの検討というところがあると思いますが、ここは行政職員だけなのか、公募というか

住民の参画があって、住民の人と一緒に作っているのかをお聞きしたいのと、情報共有促進事業の中で、伝わる広報を進めるための職員研修というのをやっていると思いますが、これは広く町民に呼びかけて行ったのでしょうか。というのも自分達の社会福祉協議会もそうですが、町民向けに広報を出している団体がいろいろあると思いますけど、そういったところにも声かけていただいたら、僕らも勉強したかったなというのがありましたので。

（企画課）
　１点目の広報戦略推進事業に関しては、このエコバックの作成も含めて、庁舎内で広報戦略プロジェクトチームを立ち上げておりまして、このメンバーはすべて役場の職員で構成しております。検討段階では、外部の委員さんが入っている訳ではないですけども、プロモーションしてくうえでは町内の事業者さんに配布や協力はいただきたいと思っていますし、町のロゴやエンブレムなどの活用もしていただきたいと思っています。
　２点目の職員研修についてですが、この予算で講師の派遣などをしたわけですけれど、この予算は地方創生推進交付金だけではなくて、市町村職員の研修をやっております高知人づくり連合というところの予算を半分活用している関係で、研修の対象者が行政職員に限った事業となっておりまして、本当は広く町民の皆さんを対象に実施したかったわけですが、この研修については、町の職員に絞らせていただいたということです。今後、町民の皆さんを対象として、こういった研修も行っていきたいと思っています。

（八木会長）
　他にありませんか。なければ次に進みたいと思いますので、②四万十町を体感する取り組み（効果的なイベントの実施）についてご説明をお願いしたいと思います。

（にぎわい創出課）
　②の四万十町を体感する取り組みについて説明　＜省略＞

（八木会長）
　ありがとうございました。四万十町を体感する取り組みについて説明がありましたが、ご質問がありましたらお願いいたします。

（太田委員）
　桜マラソンは町の取り組みではないですか。今年の３月は実施しましたよね。

（にぎわい創出課）
　桜マラソンの記載が抜けていたようですので申し訳ありません。

（太田委員）
　ちなみにどれぐらいの参加がありましたか。

（にぎわい創出課）
　１５００人ぐらいとなります。例年と比べてすこし少ないぐらいの人数ですが、四国限定として開催しました。

（岡村委員）
　Web での応募について、応募してこられた方は何をきっかけにして知って応募してこられた

のか教えてください。

（にぎわい創出課）
　町内の皆さん向けの回覧文書と高知県内の各観光施設にチラシを配布させていただき周知をお願いしました。また、高知市内に折り込みチラシなども配布させていただいたのと、ＳＮＳでの発信や、ＰＲタイムズさんという大手の Web サイトがありますが、そこで全国的な発信を行いました。ありがたいことに 1500 件ぐらい Web では申し込みをいただいたところです。

（岡村委員）
　どこから来た方が多い印象を受けられましたか。

（にぎわい創出課）
　Web については町内よりも町外が多く、特に高知市が多かったように思います。あと、県外の方も多かったです。

（酒井委員）
　ここまで、取りやめになったことが多い年の事業費はどういった形になるのかということと、先ほど 1500 件申し込みがあったということですが、これはすごくお金を入れたからこれぐらいの成果があったのか、すごく効果的にやったから 1500 件集まったのか、そのあたりはどうですか。

（にぎわい創出課）
　まずお金についてですが、米こめフェスタは例年 500 万円以上の事業費がかかっていますが、去年に関しましては、Web とドラこめということでイベント内容を縮小した形で実施しましたので、予算全額でいうと、広告費込みで 200 万円ぐらいに抑えているところです。その中のお金で、お米を買い取りしまして、申し込みいただいた方の中からお米をプレゼントしたということになります。そうしたことから考えると、個人的には大成功だったと考えています。あと、予算に関しましては使わなかった分を補正予算で落とすとか、他の事業に使われたということになっています。

（八木会長）
　米こめフェスタの件ですが、お米屋さんで知った方がおりまして、その日はお米が残ってしまったので、いくらでもえいき買っていってやということになったわけですね。どうもドライブスルーで買っていただいた方についてはお客さんが若干少なかったような気がしましたので、Web での申し込みがあったというのは成果だと思いますが、やはり四万十町の米を沢山の方に買っていただくということからすれば、若干そのあたりがまずかったかなという気もしますので、もう少しＰＲにつきましてもお願いしたいと思います。
　他にご質問ございませんか。ないようですので、続きまして、四万十町に住む取り組みについてご説明をお願いいたします。

（にぎわい創出課）
　移住促進推進事業について説明　＜省略＞

（八木会長）
　ありがとうございました。今の説明に対してご質問がありましたらお願いいたします。

（尾﨑委員）
　中間管理住宅ですけど、自分は大正に住んでいて、大正の方でも結構増えてきているなと思っていますが、役場として中間管理住宅をあと幾つぐらい作っていこうとしているのかと、あと管理する移住施設の稼働率は100％でありながら、移住者数は目標達成しなかったということですけど、やっぱりまだまだ住む家が足らないという現状なのでしょうか。

（にぎわい創出課）
　中間管理住宅については、当初50棟という目標を掲げております。現状としましては、現在家地川で3棟募集中でありますが、それを入れますと今全体で31棟ということになっております。50棟まで、あと19棟というところでそれを目指してやっています。それで、今年度は10棟を目標に事業を行うようにしております。これだけ中間管理住宅を作って、稼働率100％なのにというところですが、おっしゃるとおり町が空き家を改修して、公的に作る住宅と民間の不動産屋さんが持っていますアパートの方も、タイアップして情報発信をしていますが、どうしても移住希望の方が来られても、その時に紹介できる空き家がなかったりというのは度々あります。いざ作って募集するとすぐに埋まってしまうというような現状でございます。

（泉委員）
　この移住の件ですけども、稼働率は100％とか、移住者の達成率は未達成だけれども、そこそこ成果が見られるということでお聞きしましたけれども、その移住後の定住ですが、実際は入って来てるけどすぐ転出しているのではないかとか、私は個人的に思うわけですけれども、そのあたりのデータは収集されてないでしょうか。

（にぎわい創出課）
　移住者の定着状況ということですが、そういった調査は行っておりまして、約7割近い方が定住をしていただいております。転出をした方には後追いでアンケートを取らせていただいて、定住し続けられなかった理由ですとか、そういったことを参考にお聞かせいただいて、政策に反映しております。

（鈴木委員）
　どんな理由が多いですか。

（にぎわい創出課）
　どうしても家庭の事情で親御さんのところに帰らないといけないとか、仕事の都合といったことが多いです。

（三浦委員）
　泉委員の質問と似ていますけども、この移住者の単身の方もご家族連れの方もいると思いますけど、年齢についてはだいたい何十代の方が多いとかありますか。お仕事を定年などで辞められた後に、第2の人生を田舎の空気も良いところで、ゆっくり過ごしたいという方が多いのか、それとも子供さんを連れての働き盛りの移住者の方が多いのか教えていただけたらと思います。

（にぎわい創出課）
　町としては、子育て世代の層に移住していただきたいということで力を入れております。その中でも町内出身の方に帰って来ていただくことで、家の問題や空き家の問題なんかも一定解消されるのでそういったことを進めています。現状移住者の中で多い年齢は、30 代 40 代の方が率としては高いです。65 歳以上の 70 代の方で仕事をやり終えて、余生は田舎でといった方もいらっしゃいますが、やはり多いのはその年代となっています。

（八木会長）
　他にご質問ございませんか。

（酒井委員）
　中間管理住宅は、基本 10 年ということだと思いますが、仕事をやり終えた後に定住する場所がないということで困っている方もいますのでそういった対策と、昔から言われていますが、もう放棄したような家とか、放置されたままの家があると思いますが、そこに対する対策というのは難しいでしょうか。

（にぎわい創出課）
　こういった移住支援住宅を出た後にどうするかということですが、町としてはこういった空き家改修事業のほかに、新築をする場合にも、町産材の利活用ということで、様々なケースでの住宅に対する支援制度というものを設けておりますので、理想としては一定期間を移住支援住宅に住んでいただいた後には、新築を建てていただきたいということで合わせて支援をしています。それと、住宅の除却についてですが、中間管理住宅は何でもかんでも空き家ならできるというわけでもなく、一定改修の規模といいますか予算も限られているので、見るからに倒れそうな家はなかなか改修できないわけですが、取り壊す場合においても、老朽住宅の除却ということで、100 万円ぐらいは補助がありますので、そういったものを活用していただけたらと思います。また、来月号の広報にも空き家を改修しませんかということで掲載させていただきたいと思います。

（酒井委員）
　新築を建てられる方は限られているのかなと思ったのと、すごく危ない家が多くて、塀についても通学するところで危ない箇所がありますので、空き家で誰も手がつけられないとか、そういった対策というのは取りようがないでしょうか。

（にぎわい創出課）
　除却については建設課が担当となりますが、国道に面したところなどは町が入ってということもあります。ただ、まずは持ち主の財産でありますし、責任もありますので、補助は出しているかも分かりませんが、まずは持ち主になんとかしていただくということだと思います。実際に中間管理とか他の活用ができればいいのですが、中に荷物があるとか、お盆や正月に帰ってこられるという方も一定数いますので、地域の方からの情報提供をお願いしたいと思います。

（鈴木委員）
　私も移住をしてきまして、中間管理住宅にお世話になっていて本当に感謝しています。私の長女は、昭和小学校に通っておりまして、もうすぐ学校がなくなるというお話がありまして、学校の適正配置計画は担当が違うということは存じ上げておりますが、ただやっぱり町のにぎわいだったり、暮らしやすさだったりっていうことを考えたときに、学校があるっていうのは、

ものすごく切っても切れない関係だと思いますので、ここでも共有させていただきたいと思います。私の娘も学校がなくなるというのは嫌だと言っていて、私も学校を残してほしいと思っていて、地域の人も残して欲しいとみんな言っています。学校の適正配置計画っていうのは、国の言っている生徒の適正な数に合わせるということが、目的になっているような気がして、誰が得をするのかなということが進められていると思います。それで、学校がなくなってお店が衰退し、人もどんどん減っていって、子どもが育てにくくなっていると思います。

（山本委員）
　この成果のところで、空き家の調査により活用が可能となった物件とありますけど、この家を借りるのにいくらかかるのかということと、テレワークが可能な企業が何社ぐらいあるのかというところを教えてください。

（にぎわい創出課）
　家賃につきましても様々ありますが、令和２年度に整備した中間管理住宅で申しますと、窪川の榊山の物件は３万8000円、大正が２万5000円というふうになっております。比較的安価といいますか、そういった家賃設定となっています。続いて、テレワークが可能な企業というご質問だったと思いますが、こちらで把握している以上にいらっしゃるとは思いますが、現状７名の方がテレワークでお仕事をされていると思います。

（山本委員）
　農業関係のお仕事ですか。

（にぎわい創出課）
　ＩＴ関係のお仕事になります。ネットワークがつながればどこでも仕事ができるということで。

（横山（泰久）委員）
　クラインガルテンですが、以前はこちらをきっかけに移住して来られる方もいたということでお聞きしたことがありますが、最近もそういった形で移住されてこられる方がいますでしょうか。また、その場合はどうやって家を探されているのか教えてください。

（にぎわい創出課）
　クラインガルテンにつきましては、ありがたいことにずっと満室という状態でいっておりまして、何名か空きが出るのを待っていただいている方もいらっしゃいます。ガルテンの入居期間が３年ということで決まっておりますので、その後定住をしたいという方は空き家の紹介等をしております。

（横山（順一）委員）
　中間管理住宅のことですが、以前にいただいた資料には、元年度、２年度、３年度にそれぞれ５棟ずつ作るという目標にされていたと思います。最終的には50棟を目指すということでありますが、先ほど今年度は10棟を予定しているということでございましたので若干変更もあるのかなと思いますが、これはニーズがあれば50棟をさらに増やしていくということも考えているのか教えてください。

（にぎわい創出課）
　委員さんおっしゃるとおり、当初は毎年度５棟づつ作っていくという計画でした。昨年度までは５棟ずつの計画でしたが、昨年度に今後の住宅政策をどうしていくかという議論を庁内で行いまして、新築の公営住宅を作っていくよりも、これだけ空き家が多いわけなので、まずは空き家問題を解決しくという方針となりまして、これまで５棟だったものを 10 棟に増やしたという経緯があります。この中間管理住宅の利点としては、町がお金を入れて改修しますが、12 年後に所有者にお返しをします。返された所有者の方は、その時に入居者がいれば引き続き貸すこともできますし、売買もできるということで、町がそれほど管理に手間がかからないというところがあります。そういったメリットもあるというところで、今年度より５棟から 10 棟やっていくという計画となりました。

（鈴木委員）
　空いた学校の活用で検討いただけたらと思うことがありまして、中間管理住宅やお試し滞在住宅の稼働率の高さというのはすばらしいと思っています。自分だけで子どもを育てるというのは大変なことで、長屋とかは子育ての環境としてはいいねと、子育て仲間と話しをしたことがありまして、空いた校舎を利用してそういった中間管理住宅とかお試し住宅を入れて集合住宅にして、子育てしやすい環境になりはしないかなと思ったことですのでそういったこともご検討いただけたらと思います。

（にぎわい創出課）
　昭和に限ったことではないとは思いますが、先月６月議会の一般質問で同様な質問がございまして、十和地域振興局長が答えているのですが、昭和中学校の活用については十和のまちづくり協議会というものがありますので、そちらの方で方向性を決めてということなので、今日出たご意見については企画課から十和地域振興局に伝えていただくということでご了承いただければと思います。

（酒井委員）
　中間管理住宅の現在建っている位置をどこに何棟とか、だいたいの数字で結構ですので教えてください。

（にぎわい創出課）
　窪川が１番多くて 19 棟、大正に４棟、十和に８棟となっています。大正に少なかったこともあり、令和２年度に２棟建設したところです。

（酒井委員）
　窪川は広いと思いますが、住宅の位置も点在している感じですか。

（にぎわい創出課）
　これまではバランスを見ながら、同じ地区で重ならないようにということでやっていましたが、今年度から 10 棟ということで、こちらとしても改修する物件を確保しないといけないので、地区としてのバランスについては若干優先順位としては下がっていく形になります。

（八木会長）
　大正の中津川の方は、移住の方についてゆるやかに対応できて、自治活動も一緒にやっているということですが、中間管理住宅に入られた方について、地域の自治会への加入状況とかそ

ういったことはどんな状況でしょうか。

（にぎわい創出課）
　中間管理住宅の入居の条件としては、自治会に加入するということが条件になっております。入居者については入居が決定した後に、入居者と役場の職員と一緒に区長さんの方に挨拶にいきまして、この地区の年間の行事はだいたいこんな感じでということも一定話をしたうえで、地区に入ってもらうようにしております。

（八木会長）
　他にご質問ございませんか。ないようですのでそれでは最後の四万十町で育てる取り組みにつきまして、ご説明をお願いします。

（人材育成推進センター）
　四万十町で育てる取り組みについて説明　＜省略＞

（八木会長）
　ただ今ご説明を受けた内容についてご質問のある方はお願いいたします。

（尾﨑委員）
　「じゆうく」の先生は全部で何人ぐらいいて、何年ぐらい続けている先生がいるのか教えてください。四万十高校と窪川高校で分かれて塾をしていると思いますが、ベテランの先生が何人いるのかとか、先生の割合などについて教えてください。あと、産業振興塾で農業者ネットワークの件ですが、四万十町の産業を支える、発展させる人材の育成というところだと思いますが、人数的には 45 人というお話だったと思います。参考資料を見さしてもらったときに、窪川が 38 人、大正が 3 人、十和が 2 人、あと中土佐町と黒潮町が 1 人ということだった思いますが、大正と十和がちょっと少ないなというのが気になったので、そのあたり今後どういうふうに展開していくのか教えてください。

（人材育成推進センター）
　「じゆうく」のスタッフにつきましては、現在 6 名を雇用させていただいております。1 名が運営を委託しています会社の出向社員で、あとの 5 名につきましては、町の会計年度任用職員として雇用させていただいているところです。
　どれだけベテランの職員がいるのかといったことにつきましては、出向職員につきましては、開設当初から着任しておりますので、6 年目となっております。その次に長いスタッフにつきましては、現在 4 年目であったかと思います。残りのスタッフにつきましては、現在 2 年目と今年度から雇用というのが 2 名ずつということになっております。また、四万十教室担当とか、窪川教室担当という形でスタッフの割り振りをしておりませんので、各スタッフがローテーションでそれぞれの教室を回っていくという形をとることで、様々な教え方について学んだり、関係性の構築を図っていこうとしているところです。
　もう 1 点、農業者ネットワークの地域間の差っていう部分につきましては、正直なところ人口比ということが大きいと思いますし、前任の担当が窪川地域出身の者だったということも大きかったかと思います。今年度はもう少し大正・十和の方にも広げていきたいと思いますし、幸いなことと言いますか、私が十和地域の出身ですので、そのところも一つきっかけにして人数を増やしていきたいなと思っているところです。

（山本委員）
　四万十高校と窪川高校の「じゆうく」の６名の方ですけど、教員免許を持っている方でしょうか。

（人材育成推進センター）
　６名のスタッフのうち、教員免許を取得している方が２名だったと思います。教科は英語と小学校の教員免許であったと思います。

（山本委員）
　高校になったら、英語とか数学とか難しくなってくると思いますが、教員免許をもっていなくても対応できるのでしょうか。

（人材育成推進センター）
　塾の方としましては、昨年度から英語コースというものを設けさせていただいております。令和２年度につきましては、数学のコースも設定させていただいておりましたが、高校によって使っている教科書が違うという部分と、学年によって使う教科書が違うということもございますので、英語と比べて数学は細分化されているため、なかなか１人のスタッフで対応するのが難しい部分がありました。そのため、数学については今年度からタブレットを使って、問題集などもアプリで拾えるところもありますので、そういった部分を中心に自主学習にサポートを入っていただくという形で進めています。
　ただ、数学に代わりまして今年度から勉強の仕方を教えるスキルアップコースという授業を選択に設けまして、数学も含めてこういった勉強の仕方をすると覚えやすくなるよとか勉強が分かりやすくなるよということなど、全般的な学力の向上を目指して取り組んでいるところです。その成果を見ながらコース選択というものも検討させていただきたいと思います。

（山本委員）
　どうしてもわからないところが出てきた場合などはきちんと対応してくれるのでしょうか。

（人材育成推進センター）
　きちんと対応させていただきたいと思っておりますし、現在は高校とのネットワーク化も図れてきましたので、そういった情報も共有しながら、この生徒のここの部分がわかりづらかったなどの情報について学校にフィードバックしながらサポートしていきたいと思います。

（山本委員）
　私の息子は、高校へ行く前にちょっとだけ塾に通ったのですが、そういう生徒もいますか。

（人材育成推進センター）
　四万十高校と窪川高校へ通っている生徒が、中学校の時に塾に通っていたかどうかというところについては、こちらでは把握をしておりません。また、今のところ町営塾に通いながら、別の進学塾に通っているかという点につきましても把握をしておりません。

（酒井委員）
　この３本柱の未来塾と四万十塾と産業振興塾ですけど、３本柱なので通じているものは一緒だと思います。その場合、このビジネスプランコンテストにしても、産業振興塾にしても、連携がちょっと難しいかもわかりませんが、子ども議会みたいに小学生から参加できるようなも

のがあったら、結局はそこでノウハウを掴んだ子が、また上の方の大人が参加するビジネスプランコンテストとかに出すことなども想像できるので、もし連携が組めたら、そういったことも考えて欲しいなと思いました。
　また、令和3年から中学生も町営塾に一部通塾できる環境整備の中には、これはICTを使って、通塾しなくても、家もしくはみんなが集まる場所でできるような環境整備の方も考えられているのかお聞きしたいです。あと、産業振興なのでちょっと違うかもわからないですけど、最近すごく耕作放棄地が多くなっているじゃないですか。最近知った話ですが、流域治水といって耕作放棄地にされている場所も、一定程度の水を溜めておいて災害に備えるとか、そういった方向の用途についても全国的に考えられているというのを見たので、産業振興とちょっと違うかもわかりませんが、そういったことも学んだりできるのかなと思いまして。

（人材育成推進センター）
　まず、各塾のネットワーク化というか、そういった部分につきましては、各地区の交流というところも目指していかなければいけないと承知しているところでありますが、それぞれアプローチする分野が違うとかですね、方向性についても若干違う部分もありますので、交流することが目的化してはいけないのかなということを担当としては考えており、その時々の機会によって、交流できる仕組みを作っていきたいと思っています。また、その部分をもう少しアップデートして、小学生とかが参画しやすい形については、徐々にそういったところに手を加えていきたいなと思っていますが、少ない人員でやっておりますので、まずはできるところから取り組んでいきたいと思います。
　今言われたことにつきましては、教育委員会の方と連携しながら、特に子供議会につきましては前回の議会の方でも一般質問として出ていたこともありますので、連携しながら検討を進めていきたいなと思っています。
　ICTを使って自宅からというところについては今のところ検討をしておりません。なぜかというと先ほどご説明いたしましたとおり、高校生と中学生が交流できる場ということも考えておりますので、実際に塾に来ていただいて、こういうところなのか、こういうスタッフなのかということを感じていただいて、次のステップとして町内高校を選んでいただきたいなと考えているところでございます。
　流域治水の部分を産業振興塾で検討しているのかについては正直検討されてない状況ですが、耕作放棄地に近い部分でいいますと、農業者ネットワークの方では、美化作物といったレンゲを植えたりだとか、花が咲く作物を植えたりだとか、環境美化にも努めていけたらと考えているところです。また、合わせて日本ミツバチの養蜂化やハチミツの商品化などもしていきたいねということで検討しているところなので、そちらの方の話が耕作放棄地についての展開になるのか未定なところではありますが、農業者ネットワークの方でそういった話もしているという状況です。

（酒井委員）
　ICTの方はオフラインでしか考えてないということですけど、その場合も親が連れて行くということでしょうか、バスがあるということではなくて。

（人材育成推進センター）
　今年度については、親御さんが塾まで連れて来ていただくか、地元の子たちが自分できていただくということを想定しております。ちょっと付け加えて言いますと、中学生向けの塾については今のところオンラインでの教育は考えておりません。ただ、高校生については、一部オンラインでの提供はしていますので、ゆくゆくは町内高校に通っていただいている方について

は、オンラインでの提供はできるかなと思っています。

（太田委員）
　耕作放棄地の事についてご意見がありましたけれど、耕作放棄地になっているところはやっぱり条件が悪いところが多いです。大型の機械になりまして、機械が入って行きにくいとか、また水の管理がなかなかできないとか、水路が壊れて水が通っていないとか、イノシシとか鹿などの鳥獣害にやられて作っても物にならないとか、農業委員会でも耕作放棄地は問題になっているところです。先程お答えの中にもありました、景観作物などを植えるぐらいしか対応策がないというところです。
　農業委員会としても、そういった難しい土地については、無理に耕作をしていくということではなくて、一定は野に返していくところがあっても仕方がないかなと思っているところです。一等地といいますか良い条件の農地は守っていかないといけないと思っています。

（鈴木委員）
　「じゆうく」については、職場の先輩の子どもさんが通っていて、すごく楽しくいきいきと通っているので、すごくありがたいと言っていましたので、いいところなんだろうなと思っています。ただ、仕事フェスでゲストスピーカーの方が３社ここで紹介されているのですが、町内の会社ということではないと思います。できれば、町内で四万十町ならではの仕事をされている方のお話が聞ければいいなと思いますが、例えば森づくりを１００年の森だと言ってやっている方の熱い話とか、学校の授業であるのではあれば良いですが、ないのであればせっかくなら地元でお仕事されている方のお話を聞く機会があれば、地元の身近な仕事の魅力の再発見になるのではないかなと思いますがいかがですか。

（人材育成推進センター）
　「じゆうく」の評価につきましては、ありがとうございます。仕事フェスの方につきましては、ご指摘のとおり町外、特に県外の企業の方を中心に招聘をさせていただいております。なぜかといいますと、やはり町内にはない職業感だとか、職業を知っていただきたい、こういう仕事があるよといったものを伝えていきたいということが目的のイベントでありますので、こちらにあまりないような企業さんの方を招聘している状況でございます、また町内の職業や企業を取り扱えないのかという点については、両校で一定総合の時間等を活用し、町内の企業さんや様々な業種の方とも触れ合う機会があったと記憶しております。町の方としても、昨年はコロナの状況で中止させていただきましたが、別冊の２ページ目に⑤高校生のための町内合同企業説明会という部分で職業選択の一つとして、町内にある企業さんの合同説明会を開催させていただいております。そういった部分では一定、言われております町内の方々の職業等については高校生に伝えていけているのかなと認識しているところです。

（鈴木委員）
　今エネルギーの地産地消に取り組んでいる地域で、自治体の名前も思い出せないのですけど、小学生ぐらいの時に木を植えて、ある程度の年齢になってそれを伐採して何かをするっていう取り組みをしているところがあるというのを聞いて、すごくいいなと思ったことがありました。それはそれで真似をする必要はないですが、ここの産業の魅力を体験する機会が何かあったらいいなと思いました。

（八木会長）
　ありがとうございました。ひとまず、４つの項目について、質問とご意見をお伺いしたわけ

でございますけれど、続いて３番目の意見交換に入りたいと思いますが、これまでのことや全体的なことでもかまいませんがご意見ありましたらよろしくお願いします。

（神田委員）
　先程からずっといろいろ考えながら、お話を伺っていたのですが、本当に四万十町の各課の皆さんいろんな工夫を凝らされた事業を展開されていて、自分は隣の町から通ってきておりますけれど羨ましいなと思って聞いています。
　地方創生なので、当然ながら移住で社会増を目指すだとか、人口減を何とか止めようみたいな話になるのですが、その一方でどうしても現実として、人口減というのはどうやったって起きてしまうというのは、誰もが分かっている事実で、よく幸せなしぼみ方と言われますけれど、その辺の話は一体どこで誰が考えているのだろうということをずっと考えていました。
　特に教育だとか、そういった部分っていうのは、先ほど鈴木委員からお話ありましたけれども、当然その人口規模が減ってくると学校の統合という話も出てくる中で、地域のにぎわいというのは弱ってきてしまう、そこをどうするのかというところで、各課の横の繋がりとかやりとりというのは大事だと思いますが、その一方で人が少なくなってしまった中でみんながどうやって楽しく暮らしていったらいいのだろうっていうような、そこの部分もとても大事だと思います。その辺についてはどうでしょうか。

（八木会長）
　今後の四万十町を考える時に、あと 20 年ぐらいすれば人口が 1 万人をきると言われておりますので、１万人で留めて四万十町を維持していくのか、5.6 千人でいいのかじゃないかということになるのか、やはりある程度将来を見据えた事業展開で、地方創生はどこの地域でもやっているわけですので、増やすことが現実難しいならば、どれぐらい減らさないか、どういったまちを作っていくかという議論をしなければいけないじゃないかということでご提案をされたと思いますので、これまでは今までの計画がどう進んできたとかいうことで話しを進めてきたわけでありますが、第２次の四万十町総合振興計画の中では後期に入るわけですが、そういったことを見据えた計画にしていかないと、夢ばかり見てもいけないのではないかということも私も考えるわけですが、とは言いつつもやはり元気で暮らせるまちをつくっていくという意味では、前向いて進んでいくということも一方では必要だと思いますので、皆様方の忌憚ないご意見をお願いしたいと思います。

（鈴木委員）
　先程神田委員がおっしゃったことは本当に皆さん切実だと思います。自分も仕事でご高齢の方と話をすることがあったりして、みんな高齢者になって長生きしていけば、いつかは誰かのお世話になって、人生を終えていくっていうことは絶対避けられない中で、移住してきた人もここの土地にきて、安心して子供が育てられて、安心して暮らせる場所にするためにはどうしたらいいだろうねって考えながら地域づくりに関わっていくことが大事だと思います。
　高齢者として暮らしていくときに、どうやって地域のみんなと関わって、幸せに暮らしていくために何が必要かということを、計画に盛り込んで欲しいなって思います。あとは、障害がある人も、安心して暮らしていけるっていうことを、ここの議題に入れていただけたらなと思います。

（八木会長）
　総合振興計画の基本の部分だと思いますので、後期の計画に向けて今言われたような意見も反映しながら、安心して暮らせるまちづくりのための計画にしていただきたいと思います。他

にご意見はございませんか。

（田村委員）
　これまでのお話を聞かせていただいて、感じたこと言わさせていただきたいと思います。本当に四万十町さんは、いろんな資源に恵まれていて、いろんな人材がいて、いろんな移住者が地域に魅力を感じて入ってこられていて、そういった中ですごくいろんな施策をバランスよく考えてらっしゃるなというふうにお聞きしておりました。
　人口減に立ち向かうことはなかなか難しいですけれども、先ほど委員さんからもご意見がありましたが、安心して暮らせる地域であるということが何よりも大事なのかなと思います。移住のところで思ったことですけど、住むということは非常に重要で、中間管理住宅もどんどん進められているということだと思いますが、住み続けられるという施策で町単独の支援策も今日は全部お聞きできなかったかもしれないですが、そういう住むっていうところの具体的な支援とあわせて、やはり教育環境と住環境っていうのはすごく大事な視点かなというふうに思っていて、住むところはあっても、学校から遠いとか、そういうところができるだけ少なく軽減できるような、そういうバランスも取れていることが大事だと思います。あと移住された方が地域になじみにくいっていうところもあるかもしれませんので、自治会にも必ず入っていただいてるというお話もありましたけれど、その地域の受入環境というのは、継続してフォローしていくということがすごく大事なところなのかなと思います。あともう１つ大事なところでいうと、やっぱり仕事があるということと、人材育成についてもすごく大事な視点で、未来塾、四万十塾、産業振興塾とすごくわかりやすく取り組まれているなと思います。これもビジネスプランコンテストとかですね研修を受けて何かやってみようと思っている方達が、これをそこだけで終わらせるのではなくて、継続してできるような伴走支援といいますか、そういうことを、関係機関と一緒にやりながら、そういったところにうまく繋いでいただいて、県の地域支援企画員などもおりますので、そういったところも活用していただいてですね、皆で盛り上げて繋がって支援をしていくというところまで出来たらいいなと思っています。

（神田委員）
　先程うまく説明できてなかったと思うので誤解があってはいけないので、ちょっと補足をさせていただけたらと思いますけど、例えば移住施策とか、当然ながら人が減っていくのを抑えるために必要なことで、決して僕はそれについて意味がないと言っているわけではなくて、これから人口減に向かっていく中で、小さいところでもやっていけるよということをベースにしてやって欲しいということです。教育でもそうですが、小さくてもやっていけるし、きちんと戦っていける人材を育てられるということを、この町の強みにして、ぜひいろいろな事業展開を作ってやっていただきたい。多分どこの町もそうやっていかないと、これからしぼんでいく町や弱くなっていく町に移住してこようっていう人はいないと思いますし、ここに残って暮らそうという人もいないと思います。そこが本当に大事だと感じたのでそういう言い方をさせていただきました。

（八木会長）
　地域力を高めないといかんですよという話だったのではないかと思います。今回のこの事業については行政施策ではありますけれども、住民がどれぐらい理解してこれに携わってきたかとか協力してきたかということや、住民自らが地域をどう作っていくのかというところに視点を置いて、お互いが足並みそろえていかなければならないと思います。時間も予定の時間に近づいてきましたので、意見交換はこれで閉じたいと思います。それでは、事務局よりその他の件で説明がありますので、よろしくお願いします。

（事務局）
　会議資料について補足説明　〈省略〉

（八木会長）
　補足説明がありましたが、全体を通して皆様からご意見などありませんか。

（太田医院）
　資料の見出しが似ているので、次回からもう少し見出しの名称を変えていただけたらと思います。

（八木会長）
　他にありませんか。それでは、予定の時間になりましたので、副会長より閉会のご挨拶を申し上げます。

（船村副会長）
　どうも皆さん長時間お疲れ様でございました。昨年は様々なイベントや事業について、コロナのおかげでいろいろ制約されるところがあったかと思いますが、65 歳以上のワクチン接種がある程度進んでおります。来週あたりから、65 歳以下の方々の予約も受付けるようになっているそうですので、皆さんも健康に留意いただきまして、この会議が次回も開催できることをお祈りいたしまして、閉会のご挨拶とさせていただきます。今日はお疲れ様でございました。

―　閉　会　―